

【補足資料】八潮新校基本計画検討委員会（第1回） 議事詳細

- 1 日 時 令和4年12月19日（月） 午後3時開会
午後4時20分終了
- 2 会 場 県立八潮南高等学校大会議室
- 3 出席委員 栗藤委員長、橋副委員長、澤田副委員長、木戸場委員、鈴木委員、土谷委員、永江委員、内田委員、長谷川委員、鹿野委員、小森委員、横山委員、大場委員、三澤委員、小泉委員、青木委員、佐野委員、藤倉委員
- 4 事務局 魅力ある高校づくり課 坂本、高辻
- 5 協 議 「八潮新校基本計画検討（案）」について
栗藤委員長 それでは、協議に入ってまいります。まず、事務局の方から、この委員会の性格等について説明をお願いしたいと思います。
事務局 （新校基本計画検討委員会について、今後のスケジュールについて説明）
栗藤委員長 事務局から説明がありましたが、何か御質問等がございますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、資料1、魅力ある県立高校づくり第2期実施方策に関して、事務局から説明をお願いします。
事務局 （魅力ある県立高校づくり第2期実施方策について説明）
栗藤委員長 実施方策について、説明がございました。昨年10月に策定され、県民の皆様既に公表している内容となっております。何か質問等がありましたらお願いします。よろしいでしょうか。それでは、次に進めたいと思います。ただ今説明がありました実施方策をもとに、両校において、新校基本計画検討（案）を作成していただいております。副委員長である両校教頭から説明を含めてお願いしたいと思います。項目が多岐にわたっておりますので、最初は基本理念から基本姿勢というところまで、まずお願いをしたいと思います。そして皆さんから御意見等を頂戴して、これを繰り返していきたいと思います。では、よろしく願いいたします。
橋副委員長 （八潮新校基本計画検討（案）のうち基本理念（目指す学校、育てたい生徒像）、基本姿勢について八潮南高校案を説明）
橋副委員長 基本理念については、本校の現状と本校が取り組んでいることの中で継続していく必要がある内容について、案にまとめたとおり、自主性、それから地域との関わり、その辺りを非常に重要視して日々活動しておりますので、そういったところを是非取り入れていただければと思います。育てたい生徒像についてですが、こちらでも現在本校が行っている活動を更新するような形で、自主性、それから生徒

の自主的な学習活動、探究的な活動を続けていき、自立を促していきたいと考えております。また、現在、社会の中でいろいろな能力が必要とされていることもあると思いますので、学力向上、ビジネス教育だけではなく、スポーツや芸術など、多岐にわたる形での、全人的な教育というものを取り入れたいと思います。繰り返しになりますが、基本姿勢については、先ほどから御説明しているとおりに、生徒の自主性、また地域との連携、探究的な活動に関しては、今後も続けていきたいと思っています。それから教育課程以外の活動においても多岐にわたっていろいろなことに取り組んでいってほしいと思います。また、本校生徒の進路先は、大学進学、それから専門学校進学や就職、公務員と多岐にわたっておりますので、そういった面での進路指導を丁寧に行っていけるような、そういう学校に是非したいと思います。更に、新校ということもありますので、かなり地域、それから県民から大きな期待を寄せられていると思います。そういった意味で、この学校で良かったと言われるような学校を是非目指したいと思います。

澤田副委員長 （八潮新校基本計画検討（案）のうち基本理念（目指す学校、育てたい生徒像）、基本姿勢について八潮高校案を説明）

澤田副委員長 八潮高校は普通科の高校ということで、新校にどのような貢献ができるかなというところと、普通科としてのノウハウや指導実践というところが大事になってくるかなと思います。統合ということではあるのですが、八潮南高校の敷地で新校がスタートするということで、関係者からもやはり八潮高校の精神をうまく残していただければという思いがあります。本校はビジネス系とか体育コースがあり、大学、専門学校、就職と幅広く進路があるのですが、シンプルに健全に生きてほしいと、それは新校でも残していただきたいなと思っています。育てたい生徒像についても、清純な心と真摯な態度ということで、こちらを強調して普段から学習指導や生徒指導を行っています。基本姿勢についても、普段から取り組んでいることとして、基礎的・基本的な知識・技能の習得とあります。卒業後いろいろな進路に生徒が進むという中で、何が一番大事なのかなと考えたときに、普通科であるからこそ、しっかりやっておかなければならないものが基礎・基本であると考えています。読み書きそろばんではないですが、書いてあることを正確に把握して、それを伝える。ときには計算もする。この辺りの基本的な部分をしっかりと身につけてほしいと思います。八潮高校がこれまで培ってきたもの、ということで、お願いしたいと思います。

栗藤委員長 資料をご覧くださいますと論点という項目があるかと思えます。こちらについて、事務局の方から説明をお願いします。

事務局 （八潮新校基本計画検討（案）のうち基本理念（目指す学校、育てたい生徒像）、基本姿勢について論点を説明）

栗藤委員長 事務局から論点について説明がありました。よろしいでしょうか。それではまず、ここまでの説明について、御質問あるいは御意見等がありましたらお願いします。理念的なお話なので、やや難しい感じもあるかもしれませんが。この後、様々な取組について説明がありますので、その中に込められているものになるのか

などと思います。この段階で御発言がなければ先に進みたいと思います。それでは、二つ目の教科指導の説明についてお願いします。

橋副委員長 （八潮新校基本計画検討（案）のうち教科指導について八潮南高校案を説明）

橋副委員長 教科指導については、新校の柱の一つがビジネス教育となります。本校は商業科と情報処理科という二つの専門学科を持っており、本校が行っている教育内容がベースになっていくのだろうなという想像しております。先ほども話をしておりますが、本校が大事にしている生徒の自主性、それから自らの力で問題を解決する力、社会人基礎力を養うこと、そういったものを重点的に教科指導の方にも取り入れていきたいと考えています。また、進路指導に関しては、非常に丁寧な面接指導をはじめ、いろんな部分で丁寧にやっております。多様な進路を抱えている学校ですので、きめ細かな指導ができるように進路指導をしっかりと行って、生徒、保護者が満足するような学校を作っていければと思います。現在、本校では、選択科目をたくさん作っております。生徒が興味関心に応じて選択できるようなたくさんの選択科目を更に設置していければと考えています。それから八潮市という地域は、埼玉の中でも東京に接している場所で、都会だと思われているのですが、実は地域との結びつきが強い地域でもあります。ですので、中学校等との関係を壊さないように、またそこをうまく利用しながら学校運営していければと考えております。また、少人数教育や習熟度授業なども現在行っていますが、その延長線上のところでもっと様々な形で生徒が学習しやすい、生徒の達成感や自己肯定感に基づいた授業や教科指導ができればと考えています。商業科に限らず一般教科についても、個々の生徒に目を向けた丁寧な指導していければと考えています。

澤田副委員長 （八潮新校基本計画検討（案）のうち教科指導について八潮高校案を説明）

澤田副委員長 先ほどお話したとおり、多様な進路があるということで、基礎学力という点は、ビジネス系の学校であったとしても、重要であると考えています。一つは自ら課題を見つけ自ら解決する、これにはデータ分析が関わってくるかと思えます。あと、基礎学力の定着に関係するところですが、学び直しの機会の充実ですね。本校の生徒は読み書きそろばんの力が弱いと感じています。もちろん教科書の内容もしっかりやらないといけないのですが、言語能力、数的処理といったところは、時代が変わっても余り変わらないのではないかと考えています。また、個に応じた指導ということがこれまでも言われております。この点は新校でも変わらないと思います。

栗藤委員長 事務局の方から論点の説明をお願いします。

事務局 （八潮新校基本計画検討（案）のうち教科指導について論点を説明）

栗藤委員長 それでは、教科指導について、御意見、御質問をお願いします。最近はこの学校もそうですが、地域とのつながりがとても大事になってきているということをおっしゃる方も多く感じられておられることと思います。地域との結びつきを意識した視点も必要かもしれません。先日、八潮市を取り上げた情報番組もありましたが、

八潮市はなかなか埼玉県の他地域とのつながりが持ちにくいという地理的条件がある中で、つながりを深めてきた歴史があるのだと思います。実際の学びの展開というところで、御意見を頂戴できればと思います。よろしいでしょうか。それでは先に進みたいと思います。三つ目の項目のパートですが、生徒指導について、よろしくをお願いします。

橋副委員長 （八潮新校基本計画検討（案）のうち生徒指導について八潮南高校案を説明）

橋副委員長 生徒指導については、基本的には社会人として必要になるモラルやマナーを身に付けさせるために指導していくというところがベースになっています。新校でもそのようなところが基本になってほしいと思います。本校の生徒は、比較のおとなしく、真面目な生徒が多いですけれども、整容指導において「今日会社の面接があっても行ける格好で」という指導をしています。生徒はそういった意識を持って学校生活を送っていますので、そういったことを継続して行って、社会に出て即戦力として働ける人間をたくさん育てていければと考えています。この点において生徒指導の役割は重要であると考えています。また、生徒指導においては、保護者の理解というところもしっかりやらないと、いろいろなトラブルがあったりしますので、そういうことがないように、透明性のある指導を是非行っていきたいと考えています。本校は現在、通級指導を行っています。特別な教育支援を必要とする生徒に対して、放課後に個別の支援を行っております。今後も毎年こういった生徒が入学してくると思います。更に、不登校だった生徒も毎年何人も必ず入ってきます。そういったいろいろな事情の生徒が入学してきますので、その中で様々なことを知った上で、多様な価値観の下で、生徒指導を行っていければと考えています。当然、指導は大切ですが、生徒自身にも規範意識やコンプライアンスの向上という点について、しっかり考えてもらえるような指導をしていく必要もあるだろうと考えています。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーといった外部の機関との連携も非常に大事になってきますので、こういったところも引き続き行っていきたいと考えています。最後に、これは本校の課題になるのですが、地域との関わりという点で、苦情が寄せられることもありますので、地域との関係性を含めて、しっかりと指導していければと考えています。

澤田副委員長 （八潮新校基本計画検討（案）のうち生徒指導について八潮高校案を説明）

澤田副委員長 どの学校にもある内容だと思いますが、生徒指導の基本については、それほど変わることはないのかなと思います。学校の方は忙しくて、生徒指導案件などが起こると、担任の先生は自分の手から離して、生徒指導部で何とかしてください、ということがよくあります。それだとなかなか生徒をきちんと指導することはできないのではと考えています。まずは担任の先生がしっかりとクラスで指導するといった観点も大事だと思います。また、道徳的な時間の設定や、ビジネスにも通じる倫理観ということで、高校生には少し難しいかもしれませんが、例えばお金を稼ぐためなら何をしても良いか、といった議論ができるようにしていければと考

えています。生徒指導という括りとは少し異なるかもしれませんが、そういったことも指導していければと思います。また、本校でも生徒間のトラブルがありますが、その際、お互いの言っていることがよく分からない、早合点してトラブルになってしまうことがよくあります。相手の意見をしっかり把握できない、自分の考えをしっかりと伝えられない、この辺りは学力の問題だと思います。生徒指導の一環として基礎学力の向上も必要だと思います。

栗藤委員長 それでは事務局の方から論点についてお願いします。

事務局 （八潮新校基本計画検討（案）のうち生徒指導について論点を説明）

栗藤委員長 それでは、生徒指導について、御意見、御質問があればお願いします。比較的両校に現在でも共通しているような生徒指導のポイントが示されているのかなと思いますし、それほどかけ離れている感じは、見た感じはしませんが、新校にどういった形でそういった考え方を入れ込んでいくかということでしょうか。よろしいでしょうか。それでは先に進みたいと思います。次の進路指導について、よろしくお願いします。

橋副委員長 （八潮新校基本計画検討（案）のうち進路指導について八潮南高校案を説明）

橋副委員長 進路指導については、就職する生徒が半分くらいおり、進学に比べて動き出しが早いということもあるので、早い段階から計画的に進路指導を行わなければいけないという思いがあります。本校の場合は、先生方が丁寧に指導してくださっておりますので、ほぼ100%に近い進路決定率をここ何年も続けております。そういった中で、更に第1希望に多くの生徒が進めるよう発展していければ良いと思っております。実際には、面接指導や論文指導を生徒のために丁寧かつ徹底的に進めていきながら、これは新校で是非取り組んでみたいことのひとつなのですが、インターシップを是非取り入れてみたいと考えております。地域社会とのつながりを作ることもできますし、生徒の興味関心を高めることにもつながると思いますので、実現できたらなと考えております。その他として、キャリア教育についても、3学年を中心として、生徒、保護者が満足できるような進路指導ができればと思います。

澤田副委員長 （八潮新校基本計画検討（案）のうち進路指導について八潮高校案を説明）

澤田副委員長 先ほどからあるとおり、多様な進路に対応した指導を、引き続き継続していきたいと考えております。安易な進路決定をさせない指導ということで、早く決めて楽になりたいという生徒、保護者がいるかと思いますが、そういったところでしっかりと指導ができる学校になってほしいと思っています。また、ビジネス系の学校で株式会社を設立するというところで、ノウハウとまで言えるか分かりませんが、その辺りも学校で指導するというからには、なぜそういったことが必要なのか、ということも考えさせる必要があると思います。起業するということは、新しいビジネスモデルを社会に提供する、現在ない会社に就職することになるので、我々公務員とは全く逆の状況になると思います。そういった中で、どのように指導するのか。外部講師といったこともあるとは思いますが、生徒に起業について指導

していくからには、そういったところが大事になってくるかと思います。精神論になってしまうかもしれませんが。あとは、学力がないとやはり自分の目指す進路にはたどり着けないと思いますので、基礎学力の向上も重要だと思います。また、これも八潮高校で取り組んでいることですが、地元の中小企業の経営者で比較的若い方を招いて、講演会ですとか、生徒のプレゼンを見にきてもらうなどを行うことで、地元のつながりを強めるとともに、生徒が地元で起業するきっかけにもつながると思いました。

栗藤委員長 それでは事務局の方から論点についてお願いします。

事務局 （八潮新校基本計画検討（案）のうち進路指導について論点を説明）

栗藤委員長 それでは、進路指導に関することについて、御意見、御質問があればお願いします。よろしいでしょうか。もう少し進むと全体が見えてくると思いますので、先に進みたいと思います。それでは、次の生徒募集について説明をお願いします。

橋副委員長 （八潮新校基本計画検討（案）のうち生徒募集について八潮南高校案を説明）

橋副委員長 生徒募集について本校の現状を申し上げますと、ほとんどの生徒が八潮市、草加市、三郷市の3市から通ってきています。新校になって生徒の流れがどうなるかは分からないのですが、本校の場合はつくばエクスプレスの八潮駅が最寄り駅となっています。つくばエクスプレスは東京から茨城に抜けるための路線で、埼玉県内の人には使いづらいところがあります。そういう状況の中ですので、先ほど申し上げた3市以外から生徒を集めるのは難しいかなと考えています。そこで、隣接県協定を結んでいる千葉県流山市、松戸市など、この辺りはつくばエクスプレス沿線にある地域であり、現状では毎年1～2人の生徒が本校に入学しています。ここを増やしていくという考えもあるのかなと思っています。なぜかという、千葉県のこの辺りには、商業系の高校が流山高校の1校しかない状況だからです。商業系の高校に進学したい生徒がいたら、是非本校に入学してくださいと、流山市と松戸市にも学校訪問をしています。そういった流れもあるので、この辺りから生徒を集められると良いのかなと思っています。もう一つ、小学校との連携ということについて、こちらは八潮市教育委員会からお話があったものです。以前、市教委の方から、中学校に行くのは当たり前で、実は小学校の内に印象を与えておくと、八潮南高校を希望する生徒が増えるかもしれない、との助言を受けたことがあります。コロナ禍になる前は、本校の陸上部の生徒が潮止小学校に訪問して、走り方を教えるような取組を行っておりました。そのように小学校との連携を強化し、新校の宣伝をすることで、口コミで広がり、生徒が集まってくるのではないかと考えています。今説明したとおり、地域を大切にしないと、今後立ち行かなくなってしまうと思いますので、いかに地域との関係を築きながら、魅力ある学校をつくっていく、ということが大切になってくると思います。

澤田副委員長 （八潮新校基本計画検討（案）のうち生徒募集について八潮高校案を説明）

澤田副委員長 お金のかからない、ということを考えています。昨今タブレット端末の導入等、教育を受けるためにたくさんのお金がかかっています。もちろん避けられない部分もありますが、今あるもので何ができるのか、ということを考えていく必要があるかと思えます。この辺りは、生徒募集にも大きく関わってくるかと思えます。精査して必要経費の見直しと最小化を図ることが、生徒募集につながるのではないのかと思っています。お金の面をケアしてあげることが、遠回りになってしまいますが、生徒募集につながるのではないか、お金のかからない学校という特色もあるのではないかと思います。

栗藤委員長 事務局の方から論点についてお願いします。

事務局 (八潮新校基本計画検討(案)のうち生徒募集について論点を説明)

栗藤委員長 それでは、生徒募集に関することについて、御意見、御質問があればお願いします。よろしいでしょうか。それでは後もう一つで全体の説明が終わりますので、(6)その他に進みたいと思えます。こちらは八潮南高校から案をいただいておりますので、説明をお願いします。

橋副委員長 (八潮新校基本計画検討(案)のうちその他について八潮南高校案を説明)

栗藤委員長 ありがとうございます。一通り資料の説明が終わりましたので、前に戻っていただいても結構です。全体的なところで、御意見、御質問があればお願いします。この後事務局の方で、第2回の検討委員会を開く前に、今日の御意見を素材にして一つのものを作っていきことになりますので、そこにつながる御意見、方向性みたいなものをいただけると助かります。最初の方の説明で、八潮高校からは、新しい学校に、現在の八潮高校の精神というかレガシーのようなものを、どういう形で継承していくのか、というところを意識した表現もあるのかなと思ったのですが、それがしっかりと本日の資料にしっかりと組み込まれているのであれば、こういった形になりますが、これぞ八潮、というものがあるのでしたら、御発言いただくと助かります。では、もう一つの視点で、こういったお話もありました。八潮南高校の説明の中で出てきた話で、地域とのつながり、インターンシップを是非やっていきたい、小学校との連携など、特に生徒募集のところでは戦術的なお話が出がちなんですけれども、やはり、地域のニーズに応えるといった戦略的な部分も重要になってくるかと思えます。そういったところで、今後の新校づくりに向けて、更に御発言があればお願いします。

永江委員 的を射ていない意見かもしれませんが、どうせ新しい学校を作るのであれば、いい学校、すごく曖昧な表現ですけど、いい学校とは何だろう、魅力ある学校とは何か、まずは進路がしっかりしていることですよ。それから安全な学校であること、これは生徒指導が徹底しているということですよ。保護者として見たら、子供が安全に通える、また3年間の中でしっかりした技術、技能、学力を得る、しかるべき進路に進めてくれる。なおかつ安心・安全な学校づくり、プラスもっと考えてみると、それだけではなくて、やはり部活動。運動ですよ。これが強い学校に魅力を感じると思うんです。多くの子供たちは。中学生が魅力を感じる、行って

みたいと思う高校、施設のことは約束できるものではないと承知していますが、そこら辺の整理もしていただきたいなと思います。それが後々、部活動の発展、諸大会でそれなりの優秀な成績を収める子供たちも集まってくるんじゃないかと思います。それから、地域との連携という話が橋教頭からありましたけれども、いろいろな形での連携の仕方があると思うんですが、今、中学校の中で部活動が思いきりできていない状況が続いています。どうしているかという、クラブチームを作ってそこで練習しているんですね、夜遅くまで数時間にわたって。その指導者と連携しています。その指導者との連携、そういった意味での地域との連携、こういったものも行っていくべきだと思うんですね。生徒募集という観点で言わせてもらえば、そういう形で、是非、施設設備の整備、これもどこかに入れてもらいたいという意見を持っております。場違いな発言で申し訳ないですが。以上です。

栗藤委員長 ありがとうございます。事務局から何か発言がありますか。

事務局 貴重な御意見、ありがとうございます。この委員会の中で、もし可能であれば、参考資料でお配りした児玉新校基本計画をお開きいただくと、ここの5ページのところに、実はですね、大きな9番で、施設設備を記載する場所が少しございます。今回ここを議論してないのは、書きぶりとしては、施設設備の必要な予算の確保に努める、という同様の記載になるだろうと考えているためです。御意見については重々承知でございますが、なかなか予算も難しいところもございますので、本日の議論については基本理念等についてということで、御承知おきいただければと思います。おっしゃるところはよく分かるところでございます。新校において、これは必ず必要だということがあれば、また御相談させていただいて、可能な限り予算の確保に努めていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

栗藤委員長 予算については、なかなか確定的なことが言えないので、こういった形になっておりますが、今、御発言いただいたことはとても重要な視点かと思えます。学校の使命は何かと考えたときに、要するに顧客に対して何をするのか、どういう指導をするのか、我々が向く方向は誰であるのかということをおおのずと決まると良く言いますが、結局中学生のため、あるいは中学生の保護者のため、そういったことを考えていくと、こういったこともいろいろ出てくるのかなと思います。他にございますか。

栗藤委員長 それでは、他になければここまでとしたいと思います。今後御意見がある場合には、それぞれの教頭先生にお伝えいただければと思います。校内で紹介があったか分かりませんが、この12月1日からそれぞれの教頭先生方には兼務発令がなされおり、魅力ある高校づくり課の一員となっております。両校の教頭先生でありながら、魅力ある高校づくり課の主任管理主事という形になっています。是非、遠慮なくお話いただければと思います。よろしいでしょうか。

鈴木委員 新校を立ち上げた経験がないので、全く見通しが立っていない中での質問なのですが、令和6年度からの新校開設の部分で物事を決めていくので、正直、間に合うものなのかどうかと。今までいろいろな学校が統廃合されていて、いろいろとデータをお持ちだと思うのですが、先ほど永江先生からもおっしゃっていただい

たとおり、本校は 40 年経っているところもあって、全然手が付けられていなくて老朽化が進んでいるところもあつたりして、こういう、形を決めたんだけど、その部分は全然直せないとか、逆に、ある程度パソコンの台数が生じている中、パソコンも消耗品だと思うんです。なので、今度新校を立ち上げることによって、ICTの部分でリニューアルする中で、こういうプログラミングをしていきたいとか、起業家を育成するためにこういうものが今、3年後どうなっているか社会が分からないので、情報科の中ででき上がっているということになったときに、それが教育課程に必要なだとなっても、準備できるかどうかというところが、全然見通しが分からないんですけど、この2年間の中で、ある程度そういうのも進めていきながら、令和8年度の開校に間に合うものなのかどうかと。変な話ですけど、令和5年度に、基本方針を決めていくということもすごく大事なことですけど、もう少し早く始めても良いのかなと思うところもあつたので、すいません、答えづらいところではあるかと思いますが。

事務局 ありがとうございます。おっしゃるとおりでございます。形上、令和6年度と申し上げましたが、今からでも考えていくべきものなのかなと考えております。形式的な委員会という形では令和6年ですが、もちろん今からでも、12月から教頭先生が当課職員を兼務しているということもありますので、本当に今月から考えても良いのかなと考えております。魅力ある高校づくり課と学校が連携して、教育課程等についても、今から考えていければ一番良いのではないかと。正式な委員会は令和6年度から発足いたしますが、今から想定していただければと思います。また、今回は第2期ですけれども、第1期でも同じスケジュール感でやっておりまして、今後令和5年に児玉新校と飯能新校が開校いたしますので、スケジュール感は第1期に倣ってやっております。何とか間に合わせたいと思っておりますので、今日から明日からでも、いろいろと御教示いただければと思います。

鈴木委員 ということは、小学校5、6年生とか中学校1、2年生に対しても、新校に向けた形での声かけというかアプローチというか、地域との密着ということも視野に入れて、私たちはもう動いても良いのでしょうか。動きながら、保護者の方とも連携を取っていくということで良いのでしょうか。

事務局 そうですね。令和8年度の新校開校はもうオープンとなっておりますので、是非そういった形で動いていただけると助かるところでございます。よろしく願いしたいと思います。

鈴木委員 ありがとうございます。

栗藤委員長 よろしいでしょうか。それでは、協議を終了いたします。